

令和5年度 高鍋町立高鍋西中学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）4段階評価 【 A・・・よい B・・・概ねよい C・・・あまりよくない D・・・わるい 】

教育目標	「親愛」「英知」「鍛練」高鍋西中学校の4つのパワーアップ ～達成・実践の合言葉「みんなで100点 チーム西中」
目指す学校像 目指す生徒像 目指す教職員像 目指す保護者像	○ 明るく、美しく、活気のある学校 ○ 学ぶ意欲を育て、知的好奇心を満足させる学校 ○ 一人一人が存在感のある学校 ○ 地域の信頼にこたえる学校 ○ 自他の良さを認め、友情を育み、個性を生かし協同して活動する生徒 ○ 知的好奇心にあふれ、自ら学び、考え、課題を適切に解決しようとする生徒 ○ 命と健康を大切に、自ら進んで心や体を鍛え磨く生徒 ○ 生徒とともに学び続ける教師 ○ 生徒と夢を語り、確かな力を付ける教師 ○ 生徒の心をつかみ、気付き、動き、見届ける教師 ○ 生徒の手本となり、尊敬される教師 ○ 子どもを理解し、子どもの健全育成に努める保護者 ○ 学校と連携し、信頼関係を築く保護者 ○ 保護者同士が連帯感をもち、声をかけあう保護者
本年度の重点 (教育的課題)	1 学力の向上：授業の工夫改善・キャリア教育の推進・家庭教育の充実・情報活用能力の育成 2 豊かな心の育成：人権教育の推進・道徳教育の充実・積極的な生徒指導の充実 3 健康・安全教育の推進：健康教育の充実・体力向上の推進・食育の推進・防災、安全教育の充実 4 信頼される学校づくり：学校のマネジメント力の向上・家庭との連携・チーム学校

評価項目	方策・手立て	評価指標	自己評価		学校運営協議会委員評価				
			指標別	総合	結果や状況の考察	改善策等	コメント	評価	
たかなべ 学校エン パワー 事業	子ども一人一人の学力を伸ばすための学校づくり  子どもの自己肯定感や自己肯定のための特別支援教育と生徒指導	○ 見える学力のアップ ○ 見えない学力のアップ ○ ICTの活用アップ	○ 「ひなたの学び」の推進による授業改善「ロイロノート」「キュービナ」の活用、基礎・基本の徹底、諸テスト対策 ○ 家庭学習の習慣が確立していると感じている生徒・保護者が70%以上。 ○ 生徒指導の3機能を生かした行事の企画とi-checkの分析と手立て ○ 校内研修において、ICTを活用した個別最適な学びの実現に努める。	A B A	A	○ 特にICT活用のスキルアップに取り組み、学習アプリ「ロイロノート」等を活用した授業改善に取り組んできた。 ○ タブレット端末の持ち帰りを積極的に進めるなど家庭学習の充実のための取組を行ってきた。アンケートでは親子共に50%を越えているが、十分とはいえない。	○ 確かな学力の定着のために、既習事項の定着とテスト結果の分析とその後の対策の強化に取り組み学力向上を目指す。 ○ ICTを活用したり効果的な授業の学習意欲をアップさせる。	○ 教職員一人一人が、ICT活用の意識向上と実践により、子どものリテラシーも更に高まっているのではないかと。小中連携しながら更なる学力向上や思考ツールとしての活用を期待したい。 ○ タブレット端末の活用を中心として、効率化を図る取組と、「字を書く」ことで得られる満足感や充実感も合わせて、子どもたちが多面、多様性を持って可能性を秘めた人権として接することを期待する。 ○ 「鳴野棒踊り」を地区の方と一緒に踊る姿を拝見しました。生徒達が伝統文化を継承している姿に感動しました。またその後のICT機器を使つての授業でも、生徒達は主体的で楽しそうに取り組んでいました。	A
		○ リーダーシップ・メンバーシップのアップ ○ 道徳実践力のアップ ○ 明倫堂の教え推進アップ	○ 学校行事、生徒会活動、学年・学級活動によるしかけ ○ 学年職員による道徳の授業の実践 ○ 毎週月曜日と金曜日の朝の素読 ○ 明倫堂に係る講話や交流学習	A A A	A	○ 学校行事や生徒会活動等を通して基本的生活習慣の定着のための取組を行ってきた。 ○ 道徳は学年全員で実施できた。 ○ 明倫堂の教え講話や素読、学年に応じた取組を実施できた。	○ 生徒会活動と連携した学校全体での取組を行う。 ○ 次年度も人権学習、特別支援教育の充実に向け生徒の心の教育に努める。	○ 学習環境が大きく進化する中、先生方がそれらを理解し子供たちと一緒に努力されている姿に頭が下がります。 ○ 本人と保護者の意向だから仕方がないとはいえ、町内から宮崎市内の公・私立高校に進学する中学生が多いと聞く。高鍋高校や高鍋農業高校に進学するよう説得すべきだと思う。西小、西中で立派に育てた生徒は町内の高校で育てないのは残念である。	
		○ 心の健康アップ ○ 体力のアップ ○ 食育のアップ	○ 定期的なアンケート調査やSC・SSW等との連携 ○ 体力向上プランによる運動やトレーニング計画と実践 ○ 家庭における食育指導の啓発と栄養教諭との連携による食育指導	A A A	A	○ SC、SSWとの連携は十分に取れ、改善に向かったケースもあった。 ○ 規則正しく健康的な生活（食事・睡眠・運動）は、約80%以上の生徒が実践できており保護者も同じ割合であった。	○ これからもSC、SSWとの連携を続け、一人でも不登校生徒を少なくできるように努める。 ○ 心身共に規則正しい生活ができるよう啓発をしていく。	○ SCやSSWとの連携協力により、保護者及び生徒の理解が一層促進され、支援が充実しているのではないかと。子どもの生活にもよい影響が出ているものと感じられる。 ○ 地域や関係機関の人的・物的資源を積極的に受け入れ、連携しながら子どもたちに体験活動を行わせている。子どもに本物を触れさせる、体験させることは、生きたキャリア教育になったことだと思う。	
	○ 地域コミュニティのアップ ○ 学校の発進力アップ	○ 地域と学校が連携した地域活動の推進 ○ 学校運営協議会や民生委員との定期的な情報交換 ○ オープンスクールや諸行事への積極的な参加依頼 ○ HP、学校だより、ポスターの配付	A A A	A	○ 地域や高校、各自業所との交流活動に関しては、85%の生徒が役に立ちたと感じており、実際に諸行事において積極的に地域の人材を活用した。 ○ 月1回学校だよりの発行とHPへのアップを行った。	○ 地域人材の活用は、主にキャリア教育が中心だったが、次年度は他の分野でも積極的に活用していきたい。	○ キャリア教育の行事に参加しました。地域事務所としてもよい刺激をもらえてとても良いWinWinの企画でした。		
	○ 職場体験学習や総合的な学習の時間等を通して、働くことの意義や自分の将来について考えさせる。 ○ 朝読書の時間や町・県の図書館活用事業を有効に活用する。	○ 将来の夢や進路について考えている生徒が70%以上である。 ○ 1・2年生は1か月で2冊以上、3年生は1冊以上の読書をする。	A B	A	○ 将来の夢や進路について考えている生徒は約73.6%であり、オープンスクール参加、職場体験などを通して、進路への意欲が高まった。 ○ 読書習慣が身に付いている生徒が57.5%、保護者では33.8%とまだ定着していない。	○ 高校や関係機関と連携してキャリア教育を充実させる。 ○ 生徒会と協力しながら読書の推進を強化する。	○ 職場体験学習や今年初めて実施された「ひなた場」等を通じ、生徒達は「自分たちは地域の大人に見守られながら成長させてもらっている」と地域の暖かさを感じ取っていることと思います。 ○ 職業選択の自由、先輩たちの体験談等を積極的に語る場を設け、未来や将来をかたる機会にしてほしい。 ○ 西中の6割弱の子どもに読書週間が身に付いていることは良いことだと思う。一人でも本に手を伸ばす子どもが増えるように、今後も新たな企画や取組をしていきたい。 ○ 便利で早い機器の使用で、読書や辞書を持って調べる機会が減るような気がする。 ○ スマホやゲーム等の使用時間増加で、睡眠時間の減少や読書離れ、視力の低下等の影響が気になる。定期的な指導をお願いしたい。 ○ 同じ本を読んだ友達と感想を言い合える場があればよいと思う。		
	○ 学校行事等において、積極的に参加し、協力して充実感を実感できる取組を行わせる。 ○ プログラム委員会を充実させ、生徒の自治を充実させる。 ○ 互いに尊重し合う集団づくりを行っている。 ○ 全職員による道徳科の授業を実施する。	○ 学校を楽しんでいる生徒が80%以上である。 ○ 気配りや思いやりの心をもって人に接している生徒が80%以上である。	A A	A	○ 83.8%以上の生徒が、学校行事等において積極的に参加し、協力し充実感を実感している。 ○ 全職員による人権教育研修の充実により、生徒・保護者ともに83.4%が気配りや思いやりをもった接し方を心がけている。	○ 生徒が主体的に学校行事等に取り組む機会を積極的に設定する。 ○ 人権教育学習をさらに充実させていく。	○ これからも生徒自身が生活上の課題に気づき、仲間と協働しながら解決に向かって行動を起こすような態度を育ててほしい。 ○ 個性の尊重を第一としながらも、他人とのつながりを重視した取組が必要なのではないか。 ○ 得意分野を各々が持つことで学校生活がより良くなると思うので、先生方もそれを見つけて褒めてあげてほしい。 ○ 不登校や貧困、ヤングケアの問題を抱えている家庭もあるのではないかと考える。民生委員としても学校や行政と連携して取り組んでいかねばと考えている。		
	○ 保健体育の授業において体力テストを活用して体力の向上を図る。 ○ 部活動・社会体育クラブ加入率をさらに上げる。 ○ 避難訓練や防災の目的の取組を計画的に行う。	○ 体力テストを活用した個人の目標を設定し、Tスコアの向上（50以上が6割）を図る。 ○ 部活動（文化部を含む）・社会体育クラブ加入率が85%以上である。 ○ 「学校は、安全な登下校や身を守る態度の育成に努めている」が80%以上である。	B A	A	○ 体力向上プランをもとに、体育授業の中で体力の向上を図ってきた。本年度の校外活動を含む部活動加入率は、63.4%であり、昨年度と同じ水準であった。 ○ 生徒、保護者ともに85%以上であり「危機管理」意識は高いといえる。	○ 生徒個々の基礎体力をさらに向上させるために学校全体での取組をしていく。 ○ 安心・安全な学校生活のため細心の注意と指導をしていく。	○ 体力が少し劣る子どもがいるのは否めないが、生きるための方法論もあってよいのではないかと。 ○ 安心安全は、すべての人々が考え実践すべきである。 ○ 9月の防災教室に参加した。能登半島地震のように、いつ起こるかわからない災害。防災教室で講師が「地域は大きな家族と自覚することで何ができるか分かる」と言われた。今後も定期的の実施してほしい。 ○ 昔に比べ、遊ぶ場所が減りました。体を動かすきっかけを積極的に作っていただきたい。		

【次年度の方針性についての校長所見】  
 本年度は、校内研修において、効果的なICT活用による授業改善の取り組みを組織的に実践してきた。今後もこれまでの研究の成果を生かし、職員の授業力向上を図るとともに、生徒の確かな学力の向上を目指したい。また、家庭学習を充実させるために、家庭の協力とタブレット端末の持ち帰りも更に充実させていきたい。生徒の主体的な活動においては、学校の諸活動で生徒が活躍する場をさらに設定していきたい。キャリア教育においては、地域コーディネーターやキャリア教育支援センター等の関係機関との連携を深めると共に、他の分野にも積極的に推進をしていきたい。また、校時程や業務の見直しを行い、部活動や生徒に向き合う時間確保など、教師本来の職務に専念するためにも、町と連携しながら働き方改革を推進したい。

